

Por um futuro melhor



どの子の未来も明るくなりますように！

フラジル通信 No.18 2018.11.19 学校教育課 鳥山徳子

「Estou muito feliz em ver todo mundo!」(みんなに会えてとてもうれしい)

⑱ 10月31日(水) DEUSDETE FERREIRA 学校訪問(全日制) ⇄ つつじが丘小学校



シンジネイア校長
(2年目・写真左端)
※教育局長候補だった人
・児童数 319人
※支援学級はない。
・学級数 13学級
(近くにCMEIがないので
幼稚園が6学級もある)
・教員数 32人
・IDEB 6.9

以前は、泥棒などが入り、盗難も多い地域でした。刑務所に入っていたり、麻薬で捕まったりする親もいます。国から支援を受けている親も多いです。このような学校なので、「家族」というテーマで学校経営をしています。例え親が来てくれなくても、来てくれた親をほめるようにしています。「この地域は一番よいところですよ。でも、外から見るイメージは違います。この地域を本当に一番よいところにしましょう」と親に伝え続けています。その結果、90～95%の親が学校に来るようになりました。子どももだんだんよくなってきました。ハグもキスも親にしてもらった経験がないので、最初は嫌がっていましたが、今はハグもキスもするようになりました。

先生たちには、「子どもを大切にしましょう」と言っています。この地域の子どもたちは愛情を受けていないので、「愛を伝えましょう。もっと愛をあげましょう」と言っています。それを伝え続けてきた結果、子どもの現状を先生たちが理解するようになってきました。先生方ががんばることで、子どもたちも大人を信用できるようになりました。

そして、子どもたちには、「この学校のために先生たちは一生懸命がんばっています。自分の子どもよりも長い時間皆さんと過ごしています。さあ、皆さんは何をしてくれますか？ 愛で返してください。」と言っています。

★校長先生の深い愛情を強く感じました。幼稚園の子が歓迎の歌を歌ってくれました。チューリップの前奏が流れ、「え？ブラジルにも同じ歌があるの？」と思っていたら、何と日本語で歌ってくれました。予想外の出来事に、涙が溢れて止まりませんでした。この日のために一生懸命練習してくれたそうです。→→→→→



⑲ 11月1日(木) NEUSA PEREIRA BRAGA 学校訪問(二部制) ⇄ 飯村小学校



プリシーラ校長
(前任校長退職のため6月より)
・児童数 600人
※支援学級はない。
・学級数 21学級
(午前10+午後11)
・教員数 23人
・IDEB 7.3

先生として6月まで教室で子どもたちを教えていました。この地域には親がいない子が多いので、そういう子を一番大切にしようと思っています。まず愛を与えることが大切。その次が教育であると考えています。

もっと親を学校に来るようにさせたいです。着任当初は50%くらいの出席率でしたが、行事の内容を工夫し、親子と一緒に遊ぶ活動を取り入れるようにしたら、次から出席率が上がり、今では70%程度の出席率になりました。

親の考えを変えることは難しいことです。それは先生も同じで、簡単には考え方は変わりません。それでも、先生方には、成長した子どもの姿を学校に見に来るようにあきらめずに親に伝えるように話をしています。そして、子どもたちには、「お父さんやお母さんを愛さないでだめですよ」と伝えています。

★H28(2017年)研修員アンドレッサ先生勤務校



なかなかうまく書けないなあ

★どの学校でも「何か日本語を書いて」と言われます。漢字を書くと、歓声が上がります。日本では、表記に漢字・平仮名・片仮名の3種類があることや小学校では大体1000の漢字を習うことを伝えると、みんな頭を抱えます。でも、黒板に書いた文字をとてうれしようにノートに書き写してくれます。



大雨のため空席だらけの教室

1 巡目の学校訪問が終わりました。豊橋市の作品もすべて届けられました。パラナヴァイ市の全19校の学校紹介はこれで終了です。2 巡目は、授業を参観したり、折り紙や習字、日本語、算数などの活動を行ったりする予定です。とても楽しみです。

Por um futuro melhor



どの子の未来も明るくなりますように！

ブラジル通信 No.19 2018.11.19 学校教育課 鳥山徳子

「キレガー」と聞こえていた言葉の正体は、「Que legal!」（すごくいい・すてき・最高だね！）

（思いのままブラジル紀行）その2 ⑦～⑨

⑦ ブラジル・マリンガ市の「よさこいソーラン」世界大会1位

マリンガ文化体育協会の YOSAKOI ソーラン部は、2018年7月に開催された世界最大のダンスフェスティバル「第36回ジョインヴィレ・ダンス・フェスティバル」のポピュラーダンス部門において2度目の優勝を果たしました。ジョインヴィレ・ダンス・フェスティバルは、ブラジルのサンタ・カタリーナ州最大の都市ジョインヴィレで毎年7月に1か月間開催されるそうです。マリンガ市滞在中に文化体育協会で YOSAKOI のイベントがあったので、見に行ってきました。和太鼓部の迫力ある演奏もありました。



⑧ブラジルの「こどもの日」10月12日・「先生の日」10月15日（祝日）

10月12日は「こどもの日」なので、10月8日～11日は、私立の学校では、自分の好きな服装や、髪の毛を好きな色に染めて登校することが許されていました。子どもの好きなおやつが特別に配付されたり、先生方から子どもたちにプレゼントを渡したりしていました。また、15日は「先生の日」なので、子どもたちや校長先生から先生方へプレゼントやメッセージが送られました。「こどもの日」や「先生の日」にかかわる多くの掲示物が学校の各所に貼られていました。14日の夜には教育局主催の「先生謝する会」も盛大に開催されました。



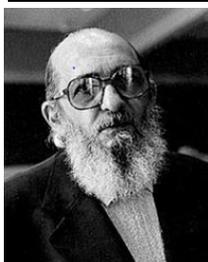
手作りのドラゴンボール「孫悟空」の衣装でポーズを決めてくれました！

⑨ブラジルの「有名な教育者：パウロ・フレイレ」

出会いは、マリンガで訪問したマリンガ市立PIVENI PIASSI MORAES学校の廊下に貼ってあった掲示物を通訳さんが見つけた。「鳥山さん、これすごく素敵な言葉ですよ」と教えてくださったのがきっかけです。ここには、直訳すると「教育は世界を変えない。教育は人を変える。人は世界を変える。」と書いてあります。気になったので、誰の言葉か調べてみることにしました。不勉強なので私が知らなかったかもしれませんが、ブラジルの有名な教育者であることがわかりました。



Paulo Freire(1921年9月21日～1997年5月2日) (Wikipediaより一部抜粋)



代表的な著書は、『被抑圧者の教育』。その中で「銀行型教育」の分析をしている。「銀行型教育」とは、生徒を貯金箱（銀行口座）、教師を預金者に例えて教師が空の銀行口座のような生徒に、まるで預金を繰り返していくように知識の伝達を行う教育形態を例えている。この時代の一般的な教育を批判するために用いた用語。「銀行型教育」では、知識は教師によって独占的に扱われるが、フレイレが理想とする教育では、生徒に、より能動的な役割を与え、より共同的な学習形態を確立することであった。そこでは、教師が一方的な語りかけである「コミュニケーション（声明）」ではなく、教師と生徒の間の「コミュニケーション（交流）」が求められる。このような教育を「問題提起型学習」と呼んだ。

フレイレが残した言葉には、こんな言葉もありました。

「人間の未完成な性質と変化しうるといふ現実の性質が、

教育がたえず進展する活動でなければならぬことを不可避的に要求する。

教育はかくして、実践のなかでたえずつくりかえられる。」

日本に戻ったら、パウロ・フレイレについて、もう少し勉強しようと思います。